

地質ニュース

昭和 62 年 4 月

第 392 号

1 9 8 7

伊豆大島火山1986年の噴火 —噴火の経緯と噴出物—	大島火山噴火対策特別チーム (地質グループ)	10
伊豆大島火山1986年の噴火 —割れ目とその伸縮観測について—	遠藤 秀典 釜井 俊昭 角 孝昭	19
鉱物資源を考える (5)	立見 辰雄	34
「炭質物」の変身——石墨化作用の岩石学	奥山(楠瀬)康子	56
昭和61年度地質調査所の出版物	資料室	64
海外室だより	海外室	67
清川 KIYOKAWA	大坪 沢平 土 谷 忠信 穠 実之	70

口 絵 伊豆大島火山1986年の噴火.....大島火山噴火対策特別チーム
(地質グループ)

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

表紙の写真

1986年伊豆大島三原山のストロンボリ式噴火

伊豆大島火山は 1986年11月15日 12年ぶりに噴火を開始した。三原山(内輪山)の火口から噴き上げる溶岩噴泉は一時は高さ 500m にも達し 深さ約 200m の堅坑状火孔を溶岩で埋めたてていった。堅坑状火孔を埋め尽くした溶岩は19日午前10時頃には内輪山から溢れ出し 数条の溶岩流となってカルデラ床に達した。写真は19日の午後8時10分頃 約 2km 離れた御神火茶屋付近にて撮影したものである。火口では 間欠的に爆発音を伴って火山弾(溶岩餅)が放物線を描いて放出されるストロンボリ式噴火が行われていた。夜になると御神火茶屋には大島住民や観光客が多数押し寄せた。まさかこの2日後に大島全住民約1万人が島外へ緊急避難するような事態に至るとは 多くの専門家でさえ予測していなかった。

中野 俊

5月号予定目次

昭和62年度の地質調査所の研究(1)

北欧の鉱床

第7回 IAGOD に参加して

海底鉱物資源の成因・探査技術・開発の将来
展望

思いつくままの地学用中国語